

令和4年産麦作情報（第2号）

1. 気象の概要

- ◆平均気温…11月中旬～1月中旬までは、平年より高い時期と低い時期が周期的に繰り返されており、11月20日～1月20日までの平均気温を平均するとほぼ平年並みで推移している。
- ◆降水量は…11月下旬まで降雨は少なく推移したが、11月5～6半旬ならびに12月4半旬にまとまった降雨がみられた。11月20日～1月20日までの降水量を平均すると、平年比88%と平年より少なく推移している。
- ◆日照時間…11月20日～1月20日までの日照時間は、平年と比較して長く推移している。（平年比118%）

2. 管内麦類の生育状況

▼農試情報田の調査結果

（令和4年1月20日調査）

| 品種 | 播種期 (月/日) | 年次 | 出芽期 (月/日) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 葉齢 (L) | 概況 (平年値または前年値と比較して) |
|----------|--------------|-------|--------------|------------|---------------------------|-----------|---|
| シロガネコムギ | 11/19 | 本年 | 12/3 | 12.9 | 350 | 4.3 | [気象] 11月19日～1月19日まで ◆平均気温…0.1℃低い ◆日照時間…長い（平年比120%） ◆降水量…少ない（平年比89%） [生育] ◆出芽期 11/19播種「シロガネコムギ」の出芽期は2日、12月10日播種「サチホゴールデン」は1日遅い。他は2～10日早い。 ◆草丈 12/1播種「サチホゴールデン」、「はるか二条」では高く、他は低い。 ◆茎数 12/1播種「サチホゴールデン」、「はるか二条」では多く、他は少ない。 ◆葉齢 12/1播種「サチホゴールデン」、「はるか二条」では進んでおり、他は遅れている。 |
| | | 平年 | 12/1 | 14.1 | 469 | 4.7 | |
| | 平年比(差) | +2 | 91 | 75 | -0.4 | | |
| | 12/9 | 本年 | 12/26 | 7.1 | 154 | 1.9 | |
| 平年 | | 12/28 | 8.6 | 170 | 2.5 | | |
| 平年比(差) | -2 | 83 | 91 | -0.6 | | | |
| サチホゴールデン | 12/1 | 本年 | 12/15 | 9.5 | 310 | 3.0 | |
| | | 前年 | 12/25 | 8.8 | 188 | 2.3 | |
| | 前年比(差) | -10 | 108 | 165 | +0.7 | | |
| | 12/10 | 本年 | 12/30 | 6.6 | 155 | 1.4 | |
| 平年 | | 12/29 | 9.0 | 209 | 2.4 | | |
| 平年比(差) | +1 | 73 | 74 | -1.0 | | | |
| はるか二条 | 12/1 | 本年 | 12/14 | 7.3 | 342 | 2.7 | |
| | | 前年 | 12/24 | 7.0 | 190 | 2.2 | |
| | 前年比(差) | -10 | 104 | 180 | +0.5 | | |
| | 12/10 | 本年 | 12/29 | 6.7 | 154 | 1.3 | |
| 平年 | | 12/31 | 8.1 | 233 | 1.9 | | |
| 平年比(差) | -2 | 83 | 66 | -0.6 | | | |

▼三神管内の調査結果

| 調査日 | 場所 | 品種名 | | 播種日 | 苗立ち数 (本/m ²) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 主稈 葉数 (L) | 備考 |
|-------|--------------------|-------------|-----------|--------|-----------------------------|------------|---------------------------|-----------------|---|
| 1月17日 | 管内現地 (千代田) | シロガネ コムギ | 本年 | 11月15日 | 154 | 14.1 | 330 | 4.3 | ・ 平年より播種期が早い。 ・ 生育は平年より進んでいる。 |
| | | | H24~29平均 | 11月29日 | 146 | 12.2 | 190 | 2.9 | |
| | | | 6か年比% (差) | (-14) | 106 | 116 | 174 | (+1.4) | |
| 1月17日 | 管内現地 (吉野ヶ 里) | はる風ふ わり | 本年 | 11月18日 | 101 | 11.3 | 292 | 4.4 | ・ 生育は前年並み。 ※茎数/m ² は少ないが茎数/株あたりは同程度→苗立ち数が少ないため、茎数/m ² が少なくなっている。 |
| | | | 前年 | 11月19日 | 136 | 11.3 | 390 | 4.4 | |
| | | | 前年比% (差) | (-1) | 74 | 100 | 75 | (±0) | |
| 1月18日 | 管内現地 (鳥栖) | はるか二 条 | 本年 | 11月20日 | 112 | 9.1 | 161 | 3.2 | ・ 生育は、2か年 (R1~R2) と比べて、やや遅れている |
| | | | R2-3平均 | 11月23日 | 105 | 10.8 | 185 | 3.3 | |
| | | | 2か年比% (差) | (-3) | 107 | 85 | 87 | (-0.1) | |

【概況】

- ・ 播種時期は、まとまった降雨の日があったものの、降雨のない晴天の日が続いたことから播種作業は比較的順調に行われた。
- ・ 小麦の播種作業は、11月中下旬に順調に行われ、出芽は良好で、現在4~5葉期となり、分けつの抽出も旺盛となってきている。一部、深播きとなった圃場では、11月30日のまとまった降雨(36.5mm)により、土壌表層に土膜が形成された影響で出芽の遅れや苗立ち不良がみられている。また、本年はシロトビムシによる食害を受けた圃場が散見されている。
- ・ 大麦の播種作業は、12月上旬がピークで、中旬までに順調に行われ、現在3~4葉期となっている。一部の圃場では、近年発生が目立つ網斑病の病斑が確認されている。

3. 今後の管理

◆追肥(本葉3~4葉期頃)

- ・ 追肥は生育の状況をみながら、葉齢3~4葉期頃に施用する。
- ・ 晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・ 土壌が乾かず、散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1~2割程度増やす。
- ・ 追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ(5葉期以降)が有効である。

◆麦踏み(3葉期以降)

- ・ 土壌が乾燥した状態で行う。
→土壌水分が高い時に行うと土が締まり、湿害を助長するとともに排水性が悪くなる。

【麦踏みの効果】

- ①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分けつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

◆土入れ(5葉期以降)

- ・ 土壌が乾燥した状態で行う。
→土が湿り、土塊が大きい場合は麦が埋まり土から出てこなくなる。

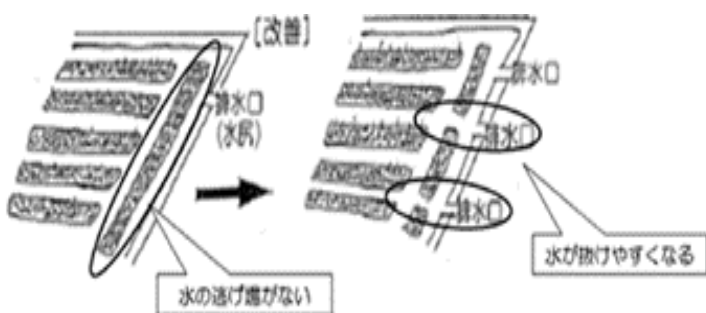
- ・雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
- ・分げつ初期に土入れ量が多いと、分げつを抑制することがある。
→土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくことが基本。
- ・播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

【土入れの効果】

- ①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

◆排水対策

- ・排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- ・土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- ・近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



◆鳥獣害対策

1) カモによる食害

- ・川沿い(筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害圃場が散見される。
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。



▲【カモによる食害痕】

(症状)

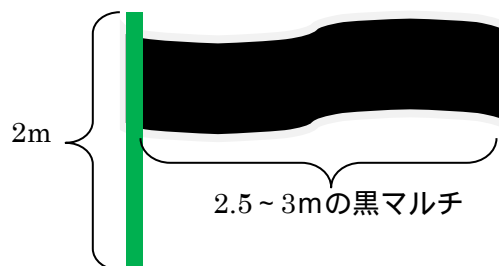
- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。



▲【カモによる食害圃場】

(対策)

- カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。
- 水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- 2.5～3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。
(費用は、「のぼり」1本あたり約420円)



2) カラス

カラスによる被害は、有害鳥類の中で最も多く、加害対象や内容も非常に多岐にわたる。

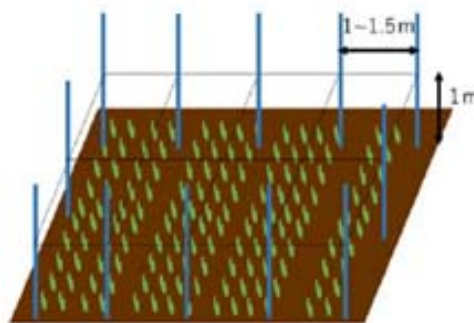
(症状)

- 写真は播種後の種をくちばしで探って食べた後の被害圃場である。
- 雑食性で、水稻や麦の種子もよく食べる。



(対策)

- 黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ(1～1.5m)の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。さらにテグスを張り巡らせると翼に当たるのを嫌がる為、効果が高くなる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。



(次年度対策)

- 忌避剤として、キヒゲン R-2 フロアブルを種子粉衣する。ただし、絶対的な忌避効果ではないため、周辺に他の餌が少なければ加害を受ける。

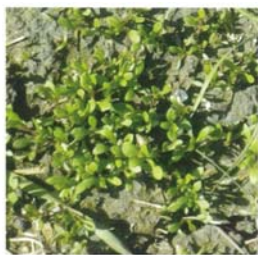
◆雑草対策

- 今後、雑草の発生が目立つ圃場では生育期処理剤(莖葉散布)の散布を検討。(下記表参照)
- 【注意】

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える(特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける。)

～麦圃場でよくみられる雑草（広葉）～



ノミノスマ



ミチヤナギ



ヤエムグラ



スズメノテッポウ カズノコグサ
赤褐色 白色



トゲミノキツネノボタン



アメリカフウロウ



タデ類 (イヌタデ)

(農薬メーカー資料から抜粋)

カズノ生育当初は、両雑草とも根の色が白色だが、生育が進むとカズノコグサの根は「白色」で、スズメノテッポウの根は「赤褐色」となるため判別可能。

▼生育期除草剤使用例

| 農薬名 | 有効な雑草 | 使用量 | 希釈水量 | 使用時期 | 総使用回数 |
|--|---|-----------|---------|--|-------|
| | | 10aあたり | | | |
| バサグラン液剤 | 一年生雑草 (イネ科を除く) | 100～200ml | 70～100L | 雑草 3～6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで | 1 回 |
| アクチノール乳剤 | 一年生広葉 ・カラスノエンドウ ・ヤエムグラ ・タデ類 | 100～200ml | 70～100L | 雑草生育初期、 麦穂ばらみ期まで | 2 回 |
| ハーモニー 75DF 水和剤 | イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ | 5～10g | 100L | 麦 1 葉期～節間伸長前 スズメノテッポウ：5 葉期まで カズノコグサ：1～3 葉期まで | 1 回 |
| <p>ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 ・薬害が生じ易いので周辺作物に注意 ・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない ・スズメノテッポウ、カラスノエンドウには効果が弱い（抑制するが枯死しない） | | | | | |

抵抗性をもつ場合は効果が劣る場合がある。連用施用には注意する。

多発田では時期を逃さないように注意！

R4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業改良普及センター

